

中女女女中高
雲家実高併八

同窓会会報

本会は会員相互の親睦を図り、母校の教育の振興に寄与することを目的とする。
(同窓会規約第3条)発行所／〒049-3111
北海道二海郡八雲町住初町88
北海道八雲高等学校 同窓会
TEL(0137)63-2105 FAX(0137)63-2106
会長 小林 信雄
編集委員長／副会長 小林 石男
編集委員／組織・広報部理事
印刷所／(有)三和印刷
〒040-0061
北海道函館市海岸町8-11
TEL(0138)45-0845 FAX(0138)43-3594

八高生よ!! 未来にはばたけ

北海道八雲高等学校
同窓会会長 小林 信雄

九月になっても猛暑が続いた異常的な夏も終わり、朝夕寒さを感じる今日この頃でございますが、卒業生や関係者の皆様方は如何お過ごしでしょうか。

さて我々の母校である北海道八雲高等学校が昨年創立百周年を迎え、同窓生始め多くの皆様方の暖かいご支援とご協力により記念式典や記念行事が盛大に開催されてから早一年が経過しました。

そして今、次の百周年に向けて新たな出発が始まりました。百周年記念事業の中で記念石碑を建立させて頂いたしましたが、その石碑には、「情熱百年、はばたけ未来へ」と刻まれ、通学する生徒達は毎日毎日それを見ながら勉学に励んでいると思います。これからは激動する社会の中で新しい時代に順応できる柔軟な発想が、より求められます。この様な時代に対応した人材を育成するため、百周年記念事業の目玉とし

て短期間ではありますが海外研修を計画、実施する事としてその第一回目を今年の十二月下旬に行う事にしました。

この研修の趣旨、理念については、本校の学校教育目標にある「自ら考え自ら学ぶ、情操豊かで社会性に富んだ人材育成、又高度情報化、グローバル化に即した人材育成を目指す」こととしました。

まず参加資格については①本校に在学する生徒(一学年在籍)であること②心身共に健康で生活態度が良好③英検が準二級以上、又は同等の英語力を有すると認められた者で学業成績及び意欲の高い者とし応募者を募り、応募者から志願理由のレポートを提出していただきそれらを総合的に判断して二名の生徒に決定をしました。選考についてはすべて学校側にお任せしました。

研修地については、旅行会社とも相談し、時差

が少なく、治安の良いオーストラリアのブリスベン周辺に決定しました。初めての試みであり多少の不安もありますが、生徒達が未来に向かって大きくはばたく事を期待している所でもあります。皆様にはこれからも母校を温かく見守っていただきたいと思っています。

私も百年の長きに渡り積み重ねられて来た伝統を未来に向かって更なる発展をする様、気持ちを新たに尽力してまいります。終りになりますが、皆様のこれからの益々のご活躍とご健勝をご祈念申し上げます。

百一年目のスタート

北海道八雲高等学校長
円山 健一

同窓生の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。日頃より本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。とくに、昨年は、創立百周年記念式典等ご尽力いただきまして重ねてお礼申し上げます。私は、四月に着任しました円山と申します。よろしくお願いたします。

令和六年度は、一年生六十五名が入学し、全校生徒百九十二名となりました。生徒は真摯な姿勢で授業に取り組み、落ち

着いた学校生活を送っています。部活動でも、陸上競技部、柔道部、吹奏楽局、美術部が全道大会に駒を進めるなど、少ない人数ながらも実績を残しています。学校行事もコロナ前のものに帰り、七月には第七十五回遊樂部祭を盛大に催したところ。また、昨年度顕著だった猛暑対策として、道立高校の普通教室に窓枠エアコンが二台ずつ設置され、教育環境が整備されております。

創立百周年記念事業の一つである「人材育成プログラム」の「海外短期研修」を三年間の予定で実施することとなりました。「グローバルリーダーの育成」「国際理解」「英語力向上」を主な目的とし、十二月下旬の十一日間の研修となっています。研修地は、日本と時差がほとんどないこと、環境や治安がよく、ホームステイの環境が整っていること、さらには少数民族(先住民)が独自の文化を有して北海道に似ており、年中暖かい亜熱帯の気候であるという観点からオーストラリア第三の都市「ブリスベン」としました。該当学年を二年生とし、毎年二名ずつ派遣します。研修成果については、研修報告会を実施することにより、全校生徒に還元する予定です。

結びになりますが、これから、同窓会の皆さまとしっかりと連携し、生徒一人ひとりに応じた、きめ細かい、質の高い、魅力ある学校づくりを推進して参りますので、今後とも変わらぬご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

新たな時代に向けて



父母と教師の会

会長 小熊裕樹

同窓会の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。昨年度に引き続き、父母と教師の会の会長を務めさせて頂きます。小熊裕樹と申します。本年も宜しくお願い申し上げます。また、昨年の創立百周年記念式典・祝賀会を無事に終えることができましたことを、父母と教師の会を代表いたしまして、改めてお礼申し上げます。

父母と教師の会は、学校と協力しながら、会員相互の交流や生徒の健全育成を目指しております。主な活動は、各種研修会の開催、登校指導への協力、遊楽部祭での模擬店出店、広報誌「薫風」の発行などです。

新たな生活スタイルに合わせて学校行事が取り組まれていきます。特に、遊楽部祭ではコロナ禍により人とのふれあいが難しかった数年間から学ぶように随所に創意工夫がなされています。生徒の模擬店では、コロナ等の感染対策や近年における暑さ対策も行いながら、それぞれ凝った演出や華やかな飾り付けがされておりました。接客態度も丁寧で、まさにこれまで八雲高校が培ってきた伝統を守りながらも、新たな時代に合わせた取り組みがなされていると実感いたしました。また、登校指導では朝から元気に挨拶を返してくれる生徒ばかりで、これもまた日頃より家庭や学校、地域におけるご指導・ご協力の賜であると感じております。以上のことを踏まえ、

今後の父母と教師の会の活動につきましては、保護者と学校が協力し合いながら支えていくだけでなく、今後も引き続き同窓会の皆様や地域の方々と連携を深めて参りたいと思っております。特に、私たち父母と教師の会も、子ども達と同様に時代の変化と向き合いながら尽力して参りますので、これからもご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様のご健勝とご多幸を祈念し、結びといたします。

学校では今



入学式



体育大会



清掃ボランティア



対面式



生徒会役員選挙



遊楽部祭



宿泊研修



芸術鑑賞会



インターンシップ



合同企業説明会

今も健在各期の心

思い出



第20期生 (昭和43年卒業)

小林(杉山) 博子

母校が創立百周年を迎えた昨年、私達は卒業して五十五年の時が経ちました。高校時代の思い出と言えば年数がこんなに経っているのにも関わらず、一年生の時の仮装「ガリバー旅行記」の山車づくりを思い出します。大きな物を制作したので時間がかり、夕方まで皆で協力して完成させたという思いが強かったのだと思います。書道部に所属し練習したが怠け癖が出て練習不足。顧問の先生に「筋が良いのに練習不足」とよく言われたのを思い出します。私達は八雲高等学校第二十期生、八雲在住の方も多く発起

人として何度も同期会を計画して実行していただきました。卒業後、何年経っても皆で会えばあっという間に気持ちは高校時代に戻ります。その中で特に印象に残っているのは、初回と還暦記念の会、古希の集い等です。その回に相応しい赤や紫の頭布にちゃんちゃんこを準備してくださり写真を撮りました。後でまとめアルバムにし届けてもらった時はとても嬉しかったです。

会代表の幸村恒夫さんの案内で、八雲高校見学をスタートに開拓記念碑、木彫り熊資料館、徳川氏胸像、梅村庭園などを巡りました。八雲高校では卒業後建築された現校舎を見学後、校史資料館を見学しました。展示物の中に旧制八雲中学校時代の父の腕時計や写真を見つけた思い出に浸りました。還暦記念の会に同期の浜西勝則さんがこの会の為に制作してくださった銅版画の素敵な作品は今も大切な宝物です。八雲の地以外でも札幌、函館、東京と会が開かれましたがコロナ禍となり終了したのは残念でした。

卒業後は専門学校での学びを活かし幼稚園に約四十年間勤務し、現在は後進の育成で若い学生と元気に日々過ごしています。

私は在学中、一年次は柔道部に入部しておりましたが、中学時代の怪我の影響もあり二年次からはバドミントン部へ入部しました。私に八雲高校を卒業してから十年以上が経ちますが、卒業後は進学・就職で札幌や東京などで生活を送り、紆余曲折を経て八雲郵便局で働くことになりました。その後、黒岩郵便局でも勤務し、二〇二二年に奥尻島にある青苗郵便局(北海道南西沖地震で最も被害があった地域)へ異動になり一度八雲町を離れましたが、今年また八雲宮園郵便局へ異動になり戻ってきたタイミングで今回この会報の依頼を受け、在学中のことを思い返してみました。

就職してから、一目は新卒で接客業に就職しましたが不規則な生活に耐えきれず中途採用で郵便局に転職しました。そこでも、私と同年の先輩社員や年下の先輩社員もいる中で必死に努力し資格なども取り、今では生まれ育ったこの八雲町で地域の皆様に寄り添った郵便局の窓口社員として勤務できていることを誇りに思います。

八雲町に戻ってきて



第64期生 (平成24年卒業)

佐藤 将悟

私に八雲高校を卒業してから十年以上が経ちますが、卒業後は進学・就職で札幌や東京などで生活を送り、紆余曲折を経て八雲郵便局で働くことになりました。その後、黒岩郵便局でも勤務し、二〇二二年に奥尻島にある青苗郵便局(北海道南西沖地震で最も被害があった地域)へ異動になり一度八雲町を離れましたが、今年また八雲宮園郵便局へ異動になり戻ってきたタイミングで今回この会報の依頼を受け、在学中のことを思い返してみました。



